

日時：平成29年(2017年)9月15日(金) 15:00~18:00

場所：市役所 3-3 会議室

欠席委員：なし

傍聴希望者：4名

委員長	<p>開会</p> <p>では、第6回宝塚市行政評価委員会を始める。</p>
委員長	<p>傍聴希望者の確認</p> <p>傍聴希望者はあるか。</p>
事務局	<p>本日の傍聴希望者は4名である。</p> <p><傍聴希望者入室></p>
委員長	<p>議題1 行政評価委員会のまとめ等について</p> <p>では、議題1「行政評価委員会のまとめ等について」の審議を始める。前回の委員会でご意見をいただいた第4回行政評価委員会のまとめの修正版について確認する。</p> <p><第4回行政評価委員会のまとめの修正版について確認></p>
委員長	<p>では次に、第5回行政評価委員会の議事録について、各委員修正等ないか確認する。</p> <p><第5回行政評価委員会の議事録について修正等意見></p>
委員長	<p>では次に、第5回行政評価委員会のまとめについて、各委員修正等ないか確認する。</p> <p><第5回行政評価委員会のまとめについて修正等意見></p>
委員長	<p>今年度、市では、厳しい財政状況に鑑み、全事務事業の見直しを行っているが、現在の進捗状況などについて説明をお願いします。</p> <p><全事務事業の見直しの進捗状況などについて説明></p>
行革推進課長	
委員長	<p>議題2 行政評価委員会の総評等について</p> <p>では、議題2「行政評価委員会の総評等について」に移る。まずは、今年度の対象分野として審議した「施策展開の方針」ごとのまとめについて、表現を統一したほうが良いとか、もう少し強く表現したいといった点等がないか確認する。</p> <p><「施策展開の方針」ごとにまとめ修正等意見></p>

委員長	次に、今年度の行政評価委員会における総評をまとめるに当たり、各委員から意見・講評をお願いします。
委員	一つ目に、3年かけて全体を評価しているが、3年という期間が妥当か再度検証する必要がある。議論する時間が短い。二つ目に、行政評価委員会からの指摘は、次期総合計画を策定する際に生かしていかないといけない。次期総合計画を策定するには、行政評価委員会から意見を言う機会を設けるなど検討してもらいたい。三つ目に、委託や指定管理している事業が施策評価表や事務事業評価表から実態が見えにくい。議論することに意義があると捉えるのであれば、例えば、指定管理を受けている事業者もこの場に出てきて、議論するということも考えられる。評価への対応に労力を割かれるといった感覚になると良くないので、当事者としっかり議論し次につながるような評価にしていければと思う。
委員	一つ目に、私は、今回、社会潮流の変化に合っているかを意識し評価を行った。人口、また、子どもの数が減少している等の状況がある中、抜本的に制度を見直していかないといけないものはないかという視点で評価表を見ていたが、その辺りの意識がまだまだ全体的に弱いと感じた。今後、社会潮流をより意識し、評価を行っていく必要がある。二つ目に、職員の意識改革にも取り組んでいく必要がある。今回の行政評価委員会において、職員の力量によって評価が違っていたと感じた。意識改革を行いつつ、発想力を養うことが重要である。
委員	一つ目に、今回、事務事業見直しについて、取組状況を説明いただいたが、こうした状況は、評価を行う上で、重要な要素となるので、評価を行う前に、開示してもらいたい。二つ目に、P、Dは一定できているが、C、Aの部分が弱いと感じた。C、Aを強化しないと毎年毎年、同じことが繰り返される。三つ目に、職員はもっと現場に出て、現場の実態を掴んでいく必要がある。四つ目に、総合計画は総花的であるので、やむをえない所はあるが、総合計画を基にして、より絞り込んだ施策展開を充実していく必要がある。五つ目に、業務が多すぎると感じる。業務を見直すことで、職員の時間を生み出し、企画に時間を回していくことを考えていく必要がある。
委員長	働き方改革が叫ばれる中、短時間で成果を出すという意識は重要である。総合計画を軸に、成果を評価し、PDCAを確立していければと思う。
委員	民間放課後児童クラブについて、「民間放課後児童クラブの運営団体へは、基準を満たすため最低必要となる人件費分などを考慮し、助成している。」と話があったが、委託や指定管理等について、しっかり人件費が出ているかという点も評価で十分見ていく必要がある。また、担当課と受託・指定管理事業者がしっかり話をし、委託・指定管理を行ったことで生まれた効果を検証する組織体制作りにも取り組んでいく必要がある。
委員	一つ目に、モノ・コト・バ宝塚について、選定基準が見えない。厳格化したものが必要である。ブランドというのは、価値を高めていくことが重要であり、ブランド選定商品が多数あれば良いというものではない。二つ目に、人権侵害を受

けた人への支援というのも施策として考えていく必要がある。三つ目に、事務事業の見直しについて、議会への配慮から中々、見直せない事業もあるのではないかと感じるが、当局と議会のやりとりをもっとオープンにしてもらいたい。

委員長

一つ目に、行政評価の位置付けや役割をもっと徹底して理解していく必要がある。行政評価は歳出削減のためのものではなく、計画がうまく進行しているか、見直しが必要ではないかを管理するツールである。評価を検証やフィードバックの機会と捉えず、通知簿的なものとして捉えられているところがある。仮に計画の内容が不十分だとしても、計画が達成できているかという視点で評価を行えば良いのだが、計画の内容に関わらずもっとがんばらないといけないという視点で評価が行われていたりする。二つ目に、今回は、事務事業の見直しに取り組んでいるという状況を聞いていたこともあり、行政評価委員会としても、例年よりも増して、歳出削減につながるアイデアを出してきた。聖域に踏み込み、摩擦を恐れず、見直していくことが重要である。

その他

委員長

3年間で振り返って一言お願いします。

委員

この3年間、思うことは言わせていただいた。市民との関係が重要であるので、行政の中だけで考えるのではなく、市民と対話し、施策を進めていただきたい。

委員

6年携わらせてもらっているが、行政評価委員会の指摘を取り込んでいただいたところもあれば、取り込んでいただけていないところもある。事業の見直しにかかる行政評価委員会からの指摘に対し、守りに入っている部分もあると感じたが、その辺りのメカニズムがどうなっているかお聞きしたい。

事務局

担当課として、重要と考えている事業もあれば、給付を受けている人の切実な願いや周りの声などもあり総合的に判断し、継続させている事業もある。事業をやめるというのは相当なパワーがいる。行政評価委員会からの指摘は、事業見直しの後押しとなっており、現在、事務事業の見直しのテーブルに乗せて議論を行っている。

委員

事業を新しく始める際は、次のことも十分見据えていく必要がある。

委員長

担当部分だけを見て、事業の継続や充実を考えるのではなく、市政全体も見渡した上で、考えていく必要がある。

委員

他市の状況や事例を見るということも重要である。

委員

行政評価委員会の所掌内容からハミ出たことも言ったと思う。行政の業務は、費用対効果だけで見るとものでもないと思うが、費用対効果をあまりにも考え過ぎる事業もあった。福祉が手厚くなってきており、財政が圧迫されてきているので、十分考えていく必要がある。職員が地域に出る取組が開始されているが、そういった動きになってきていることは評価できる。

委員	私は、宝塚市の住民ではないので、外部からの視点で、宝塚の取組の評価を行った。行政の施策は幅広いので、バランス感覚を持つことが重要である。
委員	市の内部で自己評価を行うのも大変なことであると思う。評価が、元気につながるようなものになっていければと思う。施策を絞り評価するというのも考えられる。
委員長	評価が、行政の職員の支援ツールとなれば理想的である。
委員長	最後に市より一言お願いします。
理事	(挨拶)
委員長	事務局よりその他連絡をお願いします。
事務局	9月25日(月)16:30より、市長室にて行政評価委員会から答申を行う。
委員長	それでは第6回の行政評価委員会の審議を終了とする。